

### 事業委員会主催 技術研修会(日帰りコース)報告

#### 1. はじめに

平成 28 年度の事業委員会主催の技術研修会(日帰りコース)を以下の要領で開催しました。

技術研修会の主な見学内容について報告します。



写真 キラキラ土器(左)と常滑焼(右)

#### 2. 見学内容

##### (1)実施概要

日 時：7月22日(金)

参加者数：35名

見学先：厚幌ダム建設現場、

かるまい遺跡調査整理事務所

親戚が寄贈した食器等も展示されており、阿部さんが当時の懐かしいお話を乾さんにされていました。

##### (2)かるまい遺跡調査事務所



写真 事務所概観(左)と展示土器(右)

かるまい遺跡調査整理事務所は、廃校となった旧軽舞小学校を利用し厚真町で発掘された遺跡や町民から寄贈されたレトロな生活用品等が展示されており、非常に興味深い展示品も数多くありました。見学会当日は、厚真町教育委員会の乾学芸員より遺跡等の展示品について説明していただきました。

展示品の中には、石英の結晶が含まれキラキラ光る縄文土器「キラキラ土器」や昭和34年に発見された国内最北の常滑焼(西暦1151～1175年にかけて作られたもの)など貴重な遺跡もありました。

また、厚真町に住んでいた方からの寄贈品の中に、偶然にも以前幌内に住んでいたという阿部技術士の



写真 川村技術士、阿部技術士と乾学芸員

##### (3)厚幌ダム建設現場

厚幌ダムの建設現場見学に先立ち、北海道胆振総合振興局室蘭建設管理部 厚幌ダム建設事務所 高杉係長より、厚幌ダムの事業概要及び工事状況について、説明していただきました。

厚幌ダムは、昭和52年に予備調査が開始され、平成20年に「重力式コンクリートダム」から「台形CSGダム」へ形式変更となり、平成26年よりダム本体工事が着工となりました。

ダム・貯水池の諸元は、治水(洪水調節容量)760



写真 概要説明する高杉係長と全体の様子(右)

万<sup>3</sup>(340m<sup>3</sup>/s)のほか既得用水・環境用水 2,130 万 m<sup>3</sup>、かんがい用水 1,400 万 m<sup>3</sup>、水道用水 20 万 m<sup>3</sup>の確保を目的として建設されています。ダムの諸元は、台形 CSG ダム・高さ 47.2m・長さ 516.0m・堤体積約 48 万 m<sup>3</sup>・流域面積 105.3m<sup>2</sup>・湛水面積 3.03m<sup>2</sup>・総貯水容量 474 万 m<sup>3</sup>となっています。

特徴としては、台形形状とすることにより設計の合理化、CSG 工法とすることにより材料・施工の合理化を図り、北海道では当別ダムに次いで 2 例目の台形 CSG ダムで、コスト縮減と環境に配慮したダムとなっています。また、洪水吐きは、常用洪水吐き 6 門と非常用洪水吐き 7 門で構成され、常用洪水吐き下流面を、減勢効果が期待でき下流に設置する減勢工を小さくできる階段式の採用や、プレキャスト型枠を使用するなど施工性の向上も図られました。



写真 ダム建設現場(左)と常用洪水吐き(右)

現在は、ダム本体もほぼ完成に近づいており平成 29 年 3 月から予定している試験湛水に向け工事が進められています。

### 3. おわりに

見学会当日は、天候にも恵まれ「厚幌ダム建設現場」、「かるまい遺跡調査整理事務所」を見学し、懇親



写真 集合写真(ダム下流)



写真 懇親会の様子

会では恒例となっているビールとジンギスカンで参加者の皆さんと楽しく過ごすことができました。

ご参加の皆様、並びに厚幌ダム建設の概要について説明して下さった厚幌ダム建設事務所高杉係長様、JV 皆様、かるまい遺跡調査整理事務所で発掘遺跡について説明して下さった厚真町教育委員会乾学芸員様、ご協力ありがとうございました。